

会派視察・研修報告書

会派名 市井の会

代表者名 加藤元司

1 日 に ち	令和 元 年 7 月 3日
2 視 察 先	稚内市役所
3 参 加 者	奥村孝宏 古庄修一 松浦利実 若林正人 林 美行 加藤元司 仙石三喜男
4 調査・研修の テーマ	幼保一元化について
5 主な内容	どのような経過をたどって事業化されたのか 効果は、どのようなであるか 課題・問題点はどのようなであったのか
6 所感、提言事項、課 題等	<p>【議員氏名】 仙石三喜男</p> <p>日本の最北端の市：稚内市の幼保一元化について、どのような経過をたどって事業化されたか、効果は、課題・問題点は、など先進事例を学んできました。女性の社会進出が増大するなか、仕事と家庭の両立支援策として、また少子化対策としても喫緊の課題と受け止め、平成17年より継続して実施されております。本政策の実施に当たり、国の構造改革特区の認定を受け、国の補助、及び国の補助が適用されない学校法人の4保育園については、市の単独事業として建設事業補助約2.2億円の投資もされて推進されてきました。既に16年目となり、今までの成果等についてはあまり検証もされていないようで少し残念でした。がしかし、スタート時の平成17年と今年度の入所・入園者数を比較すると保育所は+64人、幼稚園は-240人で合計-176人は出生数から考えると成果があったのかなと思うところです。</p> <p>多治見市は、今後は認定こども園が検討されていく段階と問えますので今回の稚内市の事例を参考にできればと思います。</p>

6 所感、提言事項、課題等

【議員氏名】加藤元司

平成 17 年度から始まった国の特例措置の適用を受け、当時稚内市内にある私立幼稚園に保育所を併設させるべく、幼稚園児と保育園児の合同活動を実施した。当時市内には幼稚園はすべて私立で 8 園あり、保育所は市立で 9 園あった。それぞれが少子化や過疎化で統廃合を余儀なくされており、女性の社会進出や就労形態の多様化により、ニーズが保育所で高まった。特に、0～3 歳児で待機児童を抱えており、保育所の定員を増加させる施策の実現は少子化対策としても、当市の喫緊の課題であり、幼保の一元化の推進が必要であると考えられた。

当市では、私立幼稚園が認可保育所として保育業務に参入することで幼保一元化を実現し、保育所定員の増加を可能とし、「合同保育」を実現することで特色ある幼稚園教育と保育の享受が可能になると考えた。その後、公立保育園の統廃合は進み、市としての効率化は実現できたと考えられる。又、私立幼稚園が保育所を併設したことで、それぞれの教育理念は活かされているように思われ、幼児教育のためにも効果があったのではないかと考えられる。

その後、国においては“認定こども園”という制度を取り入れて、当市が先駆けた制度を後追いで実施したような気はするが、今後の保育料の無料化の問題を見ながら次の策を考えたい。

【議員氏名】林 美行

幼保一元化は、幼稚園と保育園の地域的偏在という点、ある程度共通な考え方での運用の必要性という意味で、40 年程度あたためていた素材なので、楽しみな視察でした。以前、出雲市を視察して多治見市としての考え方を創り出そうとしましたが、有能な教育職を保育園園長として配置し、保育職、幼稚園職を共通な方針で育成することで、とりあえずの対応をすることでしか解決できませんでした。

今回消費税増税に伴い、保育料について無料化されるという事であり、一番のネックであったところが解決されるため、多治見市における導入が可能になるのではないかと考えていましたのでとても興味を持っていました。

稚内市の取り組みは、幼稚園と保育園側が私立と市立にまともに分かれており、幼稚園職員の時間延長ということが解決しやすい状態にあり、特区申請が可能であったことを知ることができました。

子どもの成長にどちらが良いのかという視点での答えが十分でなく、よく考え抜かなければならない問題という視点の疑問が

そのまま残ったことが少し残念でした。

子どもの成長にふさわしいものであると評価ができれば、施設の偏在、歩いて通えない施設構造を改善できるので、多治見市としてもしっかり考えることが必要なテーマであると考えます。

【議員氏名】 若林正人

私のような、この分野に精通していないものが、全国の先駆けとなった同事業に対し、その成果なりに口を挟むのは憶がましい限りであろう！

しかしながら、少子高齢化が進む中、将来的な縮小社会の到来を見越しての政策が、一定程度の「歯止め効果」として成果、インプットした対価に見合う、アウトプット、更には二次的なアウトカム効果についての検証は必要ではないだろうか？

今日、「認定こども園」が、国により推奨される時代のはるか十数年前に、「構造特区」の申請により、「幼保一元化の推進」に取り組んだ、当時の稚内市職員の思いの深さに、幼児保育・幼児教育の難解さが伺い知れる。

一元化のスキームについては、それぞれの事情により判断すべきであろうが、言葉だけが先行する、「女性の社会進出」・「男女共同参画」・「男女雇用機会均等法」等々、或いは、純粹に「労働力不足」のためであろうと構わない、明治以来、脈々とこの国に流れる、「女性は、親に従順であり、家のために子どもを産み、家庭内で背金をもって育てる！」、女性は「家庭を守ることが第一」とする、この「民法」の基本理念における道德観の強要が、幼児保育・教育現場の整備の著じるしい遅れ、脆弱さを招いていることは明らかであろう。

この国の「女性の社会進出」の遅れ、言葉だけの「仕事と家庭の両立」等々、この国の持続可能性の根本の課題として、未来志向の「子育て環境の整備」を、基礎自治体が率先して進めることこそが、本当の「地方の時代」への第一歩ではなかろうか！

私のような軽薄な者にとっても、考えさせられる事の多い視察研修であった。

【議員氏名】 松浦利実

家庭や地域を取り巻く環境の変化に伴い、小学校就学前の子どもの教育及び保育に対する需要は多様です。出生率が極めて低い多治見市に於いては、地域において子どもが健やかに育成される環境＝充実した内容で且つ親として育てやすい環境整備が喫緊の課題です。

保育料が無料化されるというタイミングを活かすことで、子育て環境を大きく見直すことが可能ではないかと強く思います。稚内市の取り組みは、課題解決に向き合い、特区申請を行う事で、自分たちのまちの可能性を高め、日本全体にいい影響を与えることになりました。多治見市も、思いきった、子育て環境の整備をおこなう時ではないか強く思います。

【議員氏名】 古庄修一

ワイワイ子育て、楽しさ支援特区（幼保一元化特区）について
視察内容、特例措置等について

- (1) 幼稚園に於ける幼稚園児及び保育所等の合同活動事業
- (2) 保育所に於ける保育園児及び幼稚園の合同活動事業
- (3) 保育の実施に係る事務の教育委員会への委任事業

「その効果として」

私立単独で行っていた幼稚園が保育業務に参入し、新たな私立の許可・保育所を設置出来るので保育所の定員が増加するだけでなく、保育所の数も増加する事で保護者の方のお子さんの幼児教育に選択肢が広がる。

市長のマニフェストの中に待機児童ゼロにするとあり、どのように行うのかについては、施設として一ヶ所に集約化を計ることで可能になると思うとの解答でした。

「認定に当たって」

社会施設法人という国からの補助三分の二、改築4ヶ所含む17年から21年の間に総額2.2億円、ゼロ歳児から5歳児、地域子育て支援事業として委託し事業に取り組んできた経緯がある。こうして幼保一元化を目指してきた稚内市。

「課題」

多治見市の中にも幾つもの認可外保育所があり、人口の減少する中で子どもの数も限られ財政負担も多くなる中で、子どもの未来を担う施設の充実化は欠かせない重要な課題である。

幼保の一元化は今後の大きな課題である。視察を通じ、考えるべき時として大変今後の参考になったと思います。

【議員氏名】 奥村孝宏

少子化に加え共働き世帯が増えることで、全国的に保育園への入園希望者が増えている。

稚内市でも、この傾向は顕著で、特に3歳未満児での待機児童が増えていた。一方、幼稚園では定員を割る傾向にあった。

こうしたことから、平成17年4月1日、特区によって「幼保一元化」を行い、幼稚園に対しては、『幼稚園における幼稚園児及び保育所児等の合同活動事業』として、幼稚園が保育所を併設した幼保一元化施設として、幼稚園児と保育所児の合同活動（教育・保育）を実施した。

これにより、特に保育所への入園希望者が待機することなく、保育所機能を有した幼稚園へ入ることで待機する児童数が激減した。

ただ、幼保一元化に伴う建設事業補助として、4年間で4つの私立幼稚園に対し2億2千万円余りの補助金を支出している。

◆多治見市として

本市においても、少子化・共働き世帯の増加等は進んでいると思われる。ただ、現在待機児童が「ゼロ」の状況ならば、どこまで「幼保一元化」に対する市民ニーズがあるのか十分調査した上で判断すべきである。

稚内市で、一元化した後、数年間も公立か私立の入園母体の違いで、一緒のテーブルで食べるお昼が「弁当」の子と「給食」の子に分かれることがあったそうだが、子どもたちに不慣れな思いをさせないように努める必要がある。

◆その他

1 市役所玄関横に「土のうステーション」が設置してあった。本市においても日頃から、市民が自由に「土のう」を持っていけるような仕組みを作ると良い。

2 駅前再開発ビル（キタカラ）は、1階にJR稚内駅、バスターミナル、観光協会が入り、2階には「T・ジョイ稚内」という映画館（演劇や音楽ライブなど地域の方々とのコミュニケーションスペース）や地域交流センターが入っている。本市が進めている駅南再開発等においても“多治見に映画館を！”と切望する市民の声を生かす等、参考になるとと思われる。